

本学教員執筆書籍の紹介

藤枝 憲二 編

成長障害のマネジメント 改訂版

医薬ジャーナル 定価2,940円

向井 徳男

成長曲線は語る

成長障害をきたす小児疾患—症例と解説

診断と治療社 定価5,040円

冒頭に「成長障害は、日常診療の場で小児においてありふれてみる病態で、様々な原因により引き起こされ、また治療可能な疾患も多くあります。しかし、それ自体症状が穏和で、学校検診で成長障害を指摘され受診するなど、患者あるいは家族自身がそれを意識して受診することはあまり多くありません。このため、感染症などで受診した患者の中から治療可能な成長障害を見つけだすことが重要になります」とある通り、我々小児科医にとって早期に成長障害を来している患者を検出し、病態を調べ、治療していくことは重要であり、それこそが成長発達を扱う小児科医の醍醐味と言えるかもしれません。

本書は、それぞれの成長障害に関する国内のエキスパートが分担執筆しており、その内容は解りやすいばかりでなく、極めて興味深い内容に仕上がっています。

目次を拾ってみますと、I. 小児の成長・思春期発達、II. 骨年齢・骨密度の評価法、III. 成長障害の鑑別と診断の進め方、IV. 成長ホルモン治療までの手続き、V. 成長障害治療の実際、VI. 成長障害児の社会的心理的問題とケア、VII. 成長障害治療の将来展望、VIII. 成長障害トピックス、となっていて、最後に新しい標準成長曲線が示され、また豊富な参考文献も紹介されています。

内容は成長科学協会や小児慢性特定疾患事業への申請方法の紹介など極めて実利的な面もありますが、成長の基礎的知識や成長障害の鑑別、各疾患における成長障害治療の実際について、さらに、トピックスでは分子遺伝学的な知識についてもわかりやすく紹介されていて科学的な興味も刺激され、専門家から研修医、看護士まで実践の場で広く有効に活用する事ができる良書であると思います。

日本人の成長発達の変化に伴い、2000年に新たなデータを用いた標準身長・体重表、標準成長曲線が作成され、これらが我が国における成長障害を診断する上でのゴールドスタンダードとなりました。

本書は、成長曲線を切り口に小児における成長障害をきたす疾患を網羅的に呈示、概説した非常にユニークな解説書です。13章からなり、第1章は標準成長曲線および代表的5疾患の疾患特異的成長曲線と肥満度判定曲線の解説、第2章では低身長を呈する31疾患、第3章では過成長を呈する7疾患、第4章では尿崩症の3疾患、第5章では性分化・性成熟異常を呈する13疾患、第6章では甲状腺の4疾患、第7章では副甲状腺・カルシウム異常を呈する3疾患、第8章では副腎の5疾患、第9章では糖尿病・肥満の5疾患、第10章は腎臓・心臓・消化器の6疾患、第11章は奇形症候群の5疾患、第12章は神経・筋・精神疾患の3疾患、第13章は代謝異常症3疾患です。これらをすべて合わせると93疾患にもなります。

それぞれの項目に関して小児の内分泌、腎臓、神経・精神、代謝などの臨床経験に富む本邦の代表的な専門家が見開き2ページの形でわかりやすく解説しています。序文に書かれている通り、小児の成長障害は点でとらえる事は困難であり、描かれた成長曲線が語る物語を理解することが重要です。実際に示した患者さんの成長曲線が治療の介入とともに示されているため、それぞれの物語が重みを持って感じられます。

成長障害を扱う臨床の現場や、小児と集団に関わる必要のある公的な現場で、症例発見のきっかけや、症例の診断・治療効果の評価などに役立つことが期待される実際的な解説書であると思います。

(小児科学講座)